１．当四半期決算に関する定性的情報

（１）経営成績に関する説明

当社は２０１９年度を起点に、創立１００周年を迎える２０２３年度を最終年度とする５ヵ年中期経営計画「令和.Prosperity2023」をスタートさせ、成長分野であるパワエレシステム事業、パワー半導体事業へのリソース傾注や海外事業拡大等の成長戦略を推進しています。

当第３四半期連結累計期間における当社を取り巻く市場環境は、世界的に拡大した新型コロナウイルス感染症の影響により、国内外で投資抑制傾向が継続する等、厳しい状況が続きました。こうした中で、中国では上期より経済活動の再開がいち早く進み、製造業の設備投資に持ち直しの動きが見られました。

このような環境のもと、当第３四半期連結累計期間の連結業績の売上高は、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、設備投資抑制や納期延伸及び前年同期の大口案件影響により、「電子デバイス」を除く４部門で需要が減少し、前年同期に比べ504億円減少の5,613億円となりました。
損益面では、原価低減及び固定費削減等を推進したものの、売上高、生産高の大幅な減少等により、営業損益は前年同期に比べ28億円減少の141億円、経常損益は前年同期に比べ38億円減少の140億円、親会社株主に帰属する四半期純損益はパワー半導体の特定分野向けの一部の製品の不具合対策費用として167億円を特別損失に計上したこと等により、前年同期に比べ143億円減少の△40億円となりました。

なお、当第３四半期連結会計期間の連結業績は、売上高は「食品流通」の顧客の投資抑制継続及び「発電プラント」の前年同期の大口案件の影響があったものの、「パワエレシステム エネルギー」、「パワエレシステム インダストリー」及び「電子デバイス」における需要が堅調に推移し、前年並みとなりました。営業損益は、パワー半導体の需要増加及び固定費削減等の推進により、前年同期に比べ大幅な増加となりました。

当第３四半期連結累計期間の連結経営成績は次のとおりです。

（単位：億円）

	2020年３月期 第３四半期連結累計期間	2021年３月期 第３四半期連結累計期間	増　減
売上高	6,117	5,613	△504
営業損益	168	141	△28
経常損益	177	140	△38
親会社株主に帰属する 四半期純損益	103	△40	△143

部門別の状況

≪パワエレシステム エネルギー≫
売上高：1,363億円（前年同期比　7%減少）　　営業損益：50億円（前年同期比　3億円増加）

全ての分野において売上高は前年同期を下回りましたが、固定費削減の推進や案件差等により、営業損益は前年同期を上回りました。

・エネルギーマネジメント分野は、産業向け電源機器の前年同期大口案件の影響及びスマートメータの需要減少により、売上高は前年同期を下回りましたが、案件差等により、営業損益は前年同期を上回りました。
・施設・電源システム分野は、電機盤の前年同期大口案件影響により、売上高は前年同期を下回りましたが、原価低減等により、営業損益は前年同期を上回りました。
・器具分野は、工作機械をはじめとする国内の機械セットメーカならびに受配電盤メーカの需要減少により、売上高、営業損益ともに前年同期を下回りました。

≪パワエレシステム インダストリー≫

売上高：2,016億円（前年同期比　1%減少）　営業損益：23億円（前年同期比　12億円増加）

社会ソリューション分野の需要が増加したものの、国内におけるオートメーション分野の需要減少、設備工事分野及びＩＴソリューション分野の前年同期の大口案件の影響を主因に売上高は前年同期を下回りましたが、原価低減及び固定費削減等の推進により、営業損益は前年同期を上回りました。

・オートメーション分野は、中国において低圧インバータ及びＦＡコンポーネントの需要が増加したものの、国内における需要が低調に推移し、売上高、営業損益ともに前年同期を下回りました。
・社会ソリューション分野は、鉄道車両用電機品及び船舶用排ガス浄化システムの需要が拡大し、売上高、営業損益ともに前年同期を上回りました。
・設備工事分野は、設備投資計画の延伸や前年同期の電気設備工事の大口案件影響等により、売上高は前年同期を下回りましたが、原価低減等の推進により、営業損益は前年同期を上回りました。
・ＩＴソリューション分野は、前年同期の大口案件の影響により、売上高は前年同期を下回りましたが、案件差等により、営業損益は前年同期を上回りました。

（注）第３四半期連結会計期間より、「船舶用排ガス浄化システム」を「オートメーション分野」から「社会ソリューション分野」に移管しており、前年同期の数値を移管後の分野に組み替えたうえで算出しております。

≪電子デバイス≫

売上高：1,123億円（前年同期比　9%増加）　営業損益：114億円（前年同期比　25億円増加）

・電子デバイス分野は、電気自動車（ｘＥＶ）向け、新エネルギー市場向け及び工作機械顧客向けのパワー半導体の需要増加により、売上高、営業損益ともに前年同期を上回りました。

≪食品流通≫

売上高：541億円（前年同期比　30%減少）　営業損益：△44億円（前年同期比　75億円減少）

自販機分野及び店舗流通分野ともに、新型コロナウイルス感染症の影響継続に伴う設備投資抑制や納期延伸等により需要が減少し、売上高、営業損益ともに前年同期を下回りました。

・自販機分野は、国内飲料メーカの設備投資の抑制、ならびに中国の需要減少により、売上高、営業損益ともに前年同期を下回りました。
・店舗流通分野は、コンビニエンスストア向け店舗設備機器等の需要減少により、売上高、営業損益ともに前年同期を下回りました。

≪発電プラント≫

売上高：508億円（前年同期比　27%減少）　営業損益：18億円（前年同期比　6億円増加）

・発電プラント分野は、前年同期の火力発電設備及び再生可能エネルギーの大口案件影響により、売上高は前年同期を下回りましたが、営業損益は案件差等により、前年同期を上回りました。

≪その他≫

売上高：384億円（前年同期比　16%減少）　営業損益：12億円（前年同期比　6億円減少）

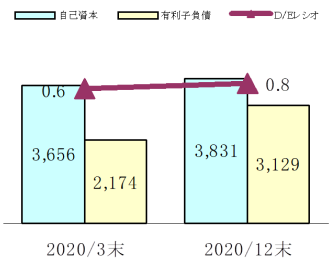
（２）財政状態に関する説明

（単位：億円、倍）

	2020/3末	構成比(%)	2020/12末	構成比(%)	増減
総資産	9,968	100.0	10,790	100.0	＋822
有利子負債残高	2,174	21.8	3,129	29.0	＋955
自己資本	3,656	36.7	3,831	35.5	＋174
Ｄ/Ｅレシオ	0.6		0.8		＋0.2

*自己資本＝純資産合計−非支配株主持分
*D/E レシオ＝有利子負債残高/自己資本

（単位：億円、倍）



当第３四半期末の総資産は10,790億円となり、前期末に比べ822億円増加しました。流動資産は、売上債権が減少した一方、現金及び預金、たな卸資産の増加などを主因として、492億円増加しました。固定資産は、その他有価証券の時価評価差額相当分の増加などにより、330億円増加しました。

有利子負債残高は、当第３四半期末では3,129億円となり、前期末に比べ955億円の増加となりました。なお、有利子負債残高から現金及び現金同等物を控除したネット有利子負債残高は、当第３四半期末では2,082億円となり、前期末に比べ546億円の増加となりました。

純資産は、利益剰余金が減少した一方、その他有価証券評価差額金の増加などにより、当第３四半期末では4,249億円となり、前期末に比べ189億円の増加となりました。なお、純資産合計から非支配株主持分を控除した自己資本は前期末に比べ174億円増加し、3,831億円となりました。Ｄ/Ｅレシオ（「有利子負債残高」÷「自己資本」）は、前期末に比べ0.2ポイント増加の0.8倍となりました。なお、ネットＤ/Ｅレシオ（「ネット有利子負債残高」÷「自己資本」）は、前期末に比べ0.1ポイント増加の0.5倍となっております。

（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

第３四半期連結累計期間の連結業績動向等を踏まえ、2020年10月29日の決算発表時に公表した2021年３月期通期の連結業績予想を修正することといたしました。

第４四半期の為替レートは、102円／US$、120円／EURO、15円／RMBを前提としています。

(2021年３月期通期　連結業績見通し)　(単位：億円)

	前回発表	今回発表	増　減
売上高	8,700	8,600	△100
営業損益	410	410	0
経常損益	425	425	0
親会社株主に帰属する当期純損益	275	330	55

(参考：部門別)　(単位：億円)

	売上高			営業損益		
	前回発表	今回発表	増　減	前回発表	今回発表	増　減
パワエレシステム エネルギー	2,020	2,020	0	96	96	0
パワエレシステム インダストリー	3,360	3,360	0	185	185	0
電子デバイス	1,420	1,490	70	129	164	35
食品流通	940	800	△140	6	△44	△50
発電プラント	870	870	0	39	39	0
その他	530	530	0	16	16	0
消去または全社	△440	△470	△30	△61	△46	15
合計	8,700	8,600	△100	410	410	0